

令和7年度

公益社団法人 埼玉県医療社会事業協会

議 事 録

第6回 理事会

日時：令和7年10月31日（金）
14：30～16：30 理事会

場所：BIZcomfort大宮西口ビル会議室
対面＋オンライン会議（Zoom）

- 1 理事会開催日時：令和7年10月31日（金）14：30～16：30
- 2 開催場所：BIZcomfort大宮西口ビル会議室
対面+オンライン会議（Zoom）併用
- 3 出席者：理事12名、監事2名 計14名
出席：
（理事）
門岡高太郎 竹本耕造（Zoom） 東（竹野）みはる 平野朋美
飯田里美 高瀬紀子 千賀英昭（Zoom 14：40～）
下山友美（Zoom） 橋村健司（Zoom ～16：00） 山梨誠（Zoom）
塚田祐子（Zoom ～15:00～16:00） 西村宝幸（Zoom）
（監事）
吉越千昭（Zoom 14:55～15:15） 菊地孝義
（顧問）
堀口泰正（Zoom）
（幹事）
清水信貴 新井良子（Zoom）
欠席：
（理事）竹内潤子、倉橋（松本）浩一、渡辺一生
- 4 定足数確認（定足数8名）
理事 参加12名の出席で理事会は成立。
- 5 役割分担
議長：門岡高太郎 書記：西村宝幸
議事録署名人：門岡高太郎、吉越千昭、菊地孝義（外部監事）
- 6 代表理事より：門岡会長
- 7 報告事項、討議事項
 - 1）関係機関・関係団体主催会議等参加報告、関係機関からの連絡等の情報共有
 - ① 医療ソーシャルワーカー協会会長会第35回会議の報告について
；門岡会長
 - ・10月25日の13時30分よりハイブリッド形式で開催された（当協会はオンライン参加）。
 - ・2026年度の全国大会は岩手県、2027年度は愛知県、2028年度は熊本県での開催が決定した。熊本大会は60周年か70周年に重複していたため時期をずらして実施される。

- ・三重県大会から始まった企画「ソーシャルワーカーに花束を」を今後も継続することが決定した。岩手県大会もソーシャルワーカーが元気になるような企画を検討する。
- ・「全国大会講師謝金に関するガイドライン」が示された。
- ・基礎調査2025の結果が報告された。会員数の減少や研修参加者の固定化について、全国の都道府県協会に共通していることが確認された。一部の協会ではAIやTeamsを活用し、時代に合わせた工夫が見られる。今後も、他県との研修連携など「横の展開」に取り組んでいく。
- ・会長会会則変更について、早坂会長から説明があった。

② 業務指針改定案について；門岡会長

「医療ソーシャルワーカー業務指針」の改定に関して、事前の周知が不十分のまま改訂の話題がニュース等で報じられた為、会員に混乱を生じた。これに対し、日本協会の早坂会長から説明があった。現在、厚生労働省では、日本協会は参加していないワーキンググループにおいて改訂作業をすすめている。日本協会では11月のワーキンググループに意見具申するため、パブリックコメントを募っている。

1) 主な改訂点

基本骨子に変更なし。業務の範囲を6つから8つに増やした。「問題」を『課題』に、「援助」を『支援』という表現に全て変更した。

新規項目として「意思決定支援」である入退院や経済的問題を含む、患者・家族の意思決定を支えるという根本的な考え方から、これを業務の最初に配置した。また「組織内活動のための体制整備」も加えた。

2) 精神分野に関する記述の削除

改定案では、旧指針にあった「精神障害者社会復帰施設、保健所、精神保健福祉センター」などの精神関連の文言が削除された。理由は、日本MHSW協会が、「医師の指示」というに表現に嫌悪感を示したことが経緯としてあった。日本MHSW協会は『医師の指導』という表現を希望している。日本協会は現在MHSW協会に「医師の指示」の表現について了承を求めており、その可否によって精神関連が対象に含まれるかどうか決定する見込みである。

3) 都道府県協会からの意見

DVや虐待に関して、児童・高齢者だけでなく特定の人々に対する文言を追記すべきではないかとの意見があった。指針の対象機関に介護保険施設を入れるのは適切か、また介護保険施設の相談員をMSWと言えるのか、有料の相談員なども対象にして良いのかという議論があった。

③ 一般社団法人ケアラーワークス主催「医療従事者向け研修動画作成」への協力について；門岡会長

当協会の研修講師を務めたこともある田中悠美子氏が代表となっている（一社）ケアラーワークスが医療従事者向けに動画を作成した。門岡会長が所属するTMGのソーシャルワーカーが協力し、動画作成は終了している。当協会として「後援」することについて会長より相談があり、理事会で了承した。

④ 都道府県協会研究支援追加インタビュー調査について；竹本副会長

先行して実施された「都道府県協会による研究支援の実態に関するアンケート調査」の追加調査について、竹本副会長に協力依頼があった。この件について、当協会として協力することを決定した。今後の対応は、竹本副会長が窓口となり調整をすすめる。

⑤ 埼玉県脳卒中・心臓病その他の循環器病対策推進協議会（第1回心疾患部会）について；塚田理事

会議に出席した塚田理事より、この協議会の現状と課題について報告があった。詳細は、提出資料の通り。

⑥ 埼玉県脳卒中・心臓病その他の循環器病対策推進協議会（第1回脳卒中部会）について；高瀬部長

会議に出席した高瀬理事より、この協議会の現状と課題について報告があった。詳細は、提出資料の通り。

⑦ 埼玉県両立支援チーム会議について；書面報告

この会議の委員になっている、埼玉県立がんセンターの城谷法子会員より、10月8日（に開催された会議報告と資料の提供があった。

⑧ 全国都道府県協会災害担当者会議について；平野事務局長

今年度3回目となる標記の会議について、今年度は社会活動部の竹野部長と渡辺理事が出席予定であることが報告された。

⑨（公社）埼玉県精神保健福祉士協会設立60周年記念式典への祝電について；平野事務局長

11月29日の式典に、竹本副会長と平野事務局長が出席予定であるが、門岡会長は出席できない。会長名で祝電を打つことの提案があり、理事会で承認された。

⑩ 埼玉県社会福祉協議会研修委員会について；平野事務局長

本日開催されている標記の委員会に、竹内副会長が出席している。内容は、次の理事会で報告予定である。

8 各部局からの報告・協議事項

1）総務部：千賀部長（「総務部」資料参照）

① 会員状況

会員389数名。入会者1名、退会者4名。

② 各ブロック活動報告

詳細は、提出資料の通り

③ 機関紙『MSW埼玉』170号

発行時期は来年1月を目標としている。発行方法については、ホームページやオープンチャットで行う。

内容（案）としては、最初の頁に門岡代表理事の寄稿と会員状況、役員体制、各部局からの簡易的な挨拶、各ブロックからの寄稿、大塚前理事の追悼文（杉山明伸前代表理事が寄稿予定）を検討している。内容や発行の時期は、LINE Worksで意見を募り臨機応変に修正する。

2) 研修部：塚田理事（「研修部」資料参照）

① 新人研修会について

9月2日に第1回新人研修会を開催した。門岡代表理事、理事・ブロック責任者より、受講者に向けてメッセージを伝えた。

受講生からは、「対面開催の意義を強く感じた」「熱意が伝わり協会全体の雰囲気や仕事への理解が深まった」「机を『口』の字型にして顔が見える配置も良かった」などの意見が挙げられた。反省点としては、理事からのメッセージが長かったため、受講生の発表や相互交流が十分にできなかった。

第2回目新人研修会は11月1日に開催予定。講師は例年通り、榊原会員と城沢会員に依頼している。

第2回と3回新人研修会終了後は懇談会を設ける予定である。

② 中堅研修会について

杉山明伸前会長に講師を依頼中である。2月ないし3月に、対面形式で開催を予定している。

3) 社会活動部：竹野部長（「社会活動部」資料参照）

① 社活ミーティング報告

研修部との合同ではなく、社会活動部として「身寄りのない方への支援」をテーマにグループワーク形式での対面開催を検討している。

「一人一人今何ができるか」「どういったことが必要なのか」ということを考え、全員の参加型グループワークを狙ってディスカッションを行う。

さいたま市社会福祉協議会高齢者暮らし安心事業担当星氏からの報告をもとに、実践のなかで直面している課題をモチーフにグループワークでディスカッションすることを検討している。

対象は、地域包括支援センター、社会福祉協議会、行政（市町村）、福祉を学んでいる学生、看護師やMSWなど入退院支援部門の医療機関を想定している。募集人数は40名程度または60名程度。

開催曜日や会場は、追って通知する。

4) 財務部：高瀬部長（「財務部」資料参照）

① 財務状況報告

10月25日時点での会費納入状況は330件となっている。残高は10月30日時点でゆうちょ銀行に781,840円、10月24日時点で埼玉りそな銀行に2,601,490円、合

計3,383,330円となっている。令和7年の会費未納者は76名で、過去130名の未納者には今月後半に督促を行う。過去未納督促の郵送費として、14,300円発生する。

旧事務所家賃は定期送金になっていたが、停止処理が遅くなり数か月分送金してしまった。返金手続きを行い、送金は停止となっている。

事務所の移転に伴って、家賃月額25,000円、年額30万円程度が削減されることになった。通信費についてもNTT固定電話解約にともない、月額8,500円（携帯電話3千円含む）、年額102,000円の削減となる。ICT関連では、kintoneを解約し、月額約6千円、年額72,000円削減、山崎メディアは現在月額6千円、今後Wixに移行できれば月額3,300円、年額約4万円削減が可能である。会費減少が現行で推移すると年額30万円減少するが、差し引き年額20万円増加になる。

単年度では赤字運営からは脱しており、定額貯金として約300万円、手元資金330万円あり、100万円の予算計上が可能である。余剰金については、備品購入等に活用する案が議論された。

② その他報告事項

70周年記念事業の予算について当初40万円程度を見込んでいたが、100万円から150万円程度まで予算の増額が可能である。

埼玉県最低賃金が11月1日から変更になるため、事務所員の時給を1,141円に引き上げる。30分単位などで端数が生じる場合は切り上げ計算を行う。

5) 事務局：平野事務局長（「事務局」資料参照）

① シン事業協会創造チーム（事務局・総務部・財務部）関連報告

会議資料の通り。

② 立入検査について

12月3日の予定である。場所は同協会事務所の8名用会議室と予備として6名用会議室を9時から17時まで確保した。前回の立入調査では、令和3年の役員変更の届け出が提出されていなかった点について書面で指摘された。必要書類を精査し立入調査に臨む。

③ 令和8年度定時総会の会場及び日程について

2026年6月6日、埼玉会館の会場（100名規模）で申し込みを予定している。

④ 令和8年度事業計画案と予算案について

次回理事会で、各部局からの事業計画案及び予算案の作成を依頼する予定である。

⑤ 70周年記念事業について（日程・会場・実行委員長の選任と実行委員会の開催）

2026年10月3日、埼玉会館小ホール（500名会場）で会場を確保した。

「70年間やってきたことの誇りを会員にもってもらいたい」という点をコンセプトに掲げる。式典後に懇談会を開催したい。

今後は、実行委員会を中心に企画を立てていく予定である。実行委員長として、泉谷東部ブロック責任者に打診したところ、快諾された。永年表彰についても、検討していく。

6) ICT部門より：清水部門長

① ホームページの見直しについて

求人募集の依頼が増加しているため、新ホームページで仕組みを検討している。会員専用ページは、以前の共有パスワードを、個人メールアドレスとパスワードによるログイン形式に変更することで、パスワード管理の負担軽減が期待できる。更にお知らせや採用情報などの更新が、ICT部門や理事数名で共有して行える仕組みとなり、一人の担当者に負担が集中しないように配慮できる。サイトの操作に関する動画マニュアルも作成する。

運用コストは月3,000円弱である。現在公開できる状態である。管理・運用者が決定すれば正式に運用が可能である。

旧ホームページについては、旧業者との契約期間の定めがないため、解約を申し出る必要があるが、旧ホームページに新しいホームページに誘導する案内の掲載を依頼すると追加の費用が発生する。このため、旧ページは閉鎖せず猶予期間を設け、将来的に新しいホームページに切り替えていく方針とする。

9 外部監事より

財務状況については、前年度の赤字から黒字に転換したことは評価しつつ、未収会費の件数が多く、未収会員が2年で退会（除名）扱いになるという管理フローが適正に運用されているのか懸念があること、会員数が減少傾向にあることから、会員拡大の方法について指摘を受ける。加えて、収益事業のあり方や医療相談会、会員向けの研修・講習会の対象を非会員にも広げ、有料・無料枠の区別についても検討すべきではないかとの意見があった。

10 次回理事会について

後日協会事務所で開催を予定する。日程は、事務局長が調整する。

以上を以て議案等の審議を終了し、16：30議長より閉会を宣し、解散した。

上記は、理事会議事録に相違ないことを証明する。

令和7年12月2日

議事録署名人（代表理事）

議事録署名人（監事）

議事録署名人（外部監事）